

シエラレオネの教育の質を向上させるための
研修を受けていない、または資格を持たない教師への支援



最終報告書

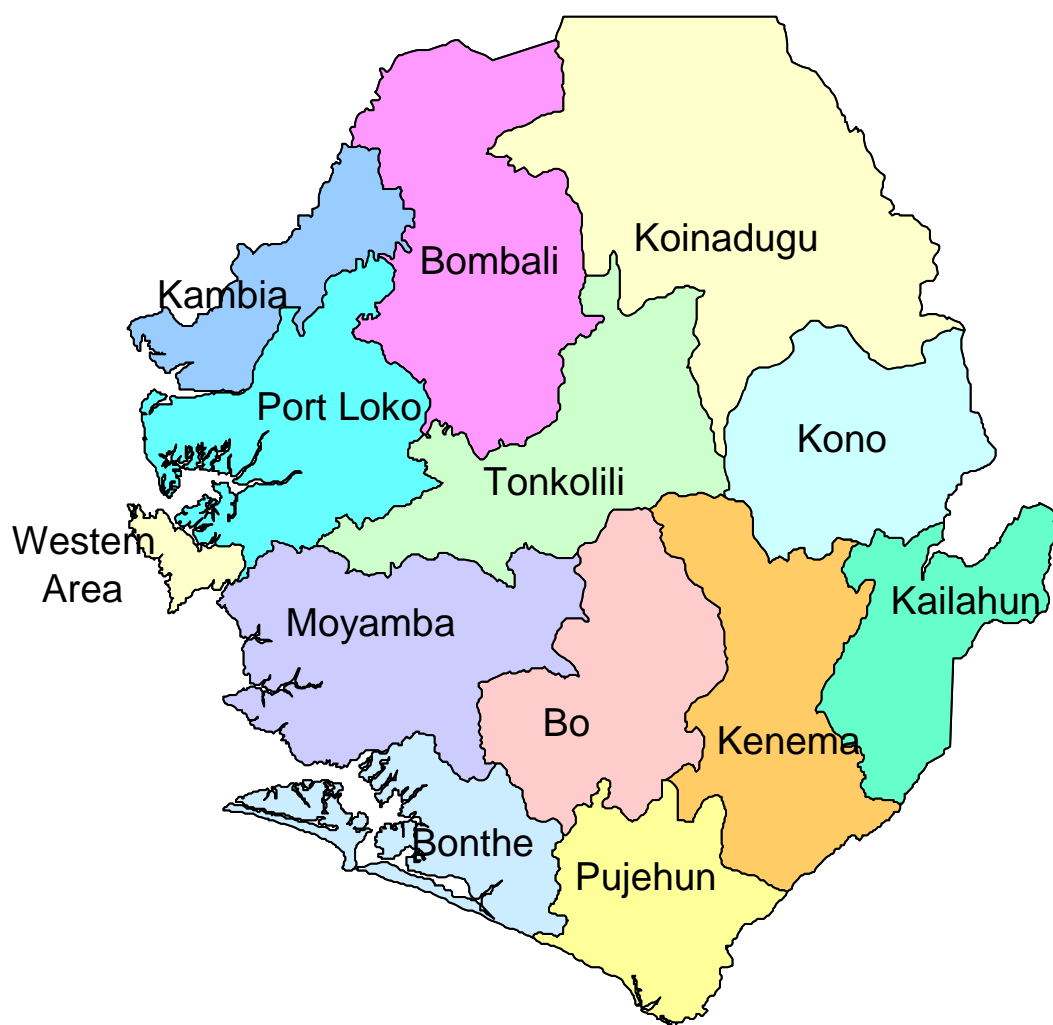
ユニセフ・シエラレオネ事務所

2012年12月

unite for
children

unicef 

シエラレオネの地図



1. 支援の概要

支援国	シエラレオネ共和国
プログラム名	教員教育プログラム
PBA 参照番号	SC/2011/0031-00
プログラム資金	231,650.17 米ドル
使用額	231,650.17 米ドル
残額	0
プロジェクト期間	2011 年 1 月～2012 年 12 月
報告期間	2011 年 1 月～2012 年 12 月
プログラムの目的	研修を受けたことがない、または資格を持たない(UU)教師が、遠隔教育プログラムを修了と授業の質の向上を支援する。
対象者	UU 教師、講師、教員養成大学
対象地域	モヤンバ (Moyamba) 、プジェフン (Pujehun) 、ボンチ (Bonthe) 、ポー (Bo) 、ボンバリ (Bombali) 、コインドゥグ (Koinadugu) 、トンコリリ (Tonkolili) 、ケネマ (Kenema) 、カイルahun (Kailahun) 、西部地域
プログラム実施パートナー	教育科学技術省、教員養成大学、郡議会

2. 概要

本報告書は、学校に勤めているものの研修を受けたことがない、または資格を持っていない（UU）教師に対して公式の教員資格を取得できるように支援し、シエラレオネにおける教育の質を向上させるための活動に関する最終報告書です。報告の対象期間は、2011年1月から2012年12月です。プログラム資金の合計額は231,650.17米ドルで、全額、活用されました。

本プロジェクトは、UU教師の知識やスキル、能力の向上を目的とし、その目的を達成するために教科や子ども中心の教授法に関する理解を深めるための研修を行いました。プログラム資金は、次のような主な活動に活用されました。

- 西部地域を含む10地区の教師600人(女性180人、男性420人)に対する研修支援
- 遠隔教育プログラムのモニタリングを実施、またその内容を向上させるため、教育養成大学、地区の教育事務所、高等教育科学技術局(HEST)に対する支援

FNSチャリティキャンペーンからの資金によって、600人のUU教師（女性180人、男性420人）が、小学校教員免許取得コース（1年間）を受講することができました。また資金の一部は、ユニセフスタッフや大学の学長、教育科学技術省の役人によるプログラム実施現場への合同モニタリングや支援的巡回指導にかかる費用として活用されました。また、本資金はプロジェクトを管理する教育専門家の人件費としても活用されました。

さらに、5つの教員養成大学(Eastern Polytechnic, Njala 大学ポ一校, Port Loko Teachers College, フリータウン教員養成大学、Northern Polytechnic)における物資の使用状況および管理状況を確認するためのモニタリングにも資金は活用されました。モニタリングでは、倉庫や記録がチェックされ、在庫が撮影され、物理的調査が実施されました。また、受益者たちの物資の適切性に関する意見を聴取しました。モニタリングの報告書は、効率的で効果的な物資の使用や適切な記録の文書化について明記されています。

3. シエラレオネにおける教育状況に関する概観

シエラレオネにおける教員教育：課題と機会

過去に経験した内戦が原因で有資格の教師が不足し、UU教師がたくさん雇用されました。資格を持っていない教師たちは、シエラレオネでは、自分の学歴以上の高等レベルで教えています。例：小学校で教える中学校教員免許の保持者もしくは国家小学校教員免許保持者。

シエラレオネのUU教師の状況は厳しく、こういった教師のほとんどが教師歴10年以上であっても職の保証はありません。彼らの仕事は学年末に終了し、再雇用の機会を得るために面倒な再申請の手続きをしなければなりません。しかし、再雇用される保証は全くありません。

ん。既に教員不足の学校は、こういった状況に不満を持つ UU 教師をも失う可能性に直面しています。

教員養成大学は、現在、教材不足という大きな課題に直面しています。図書室にある書籍は少ないうえ、情報が古くなっている古本です。遠隔教育センターでは、学生たちが調査をするための資料が特に不足しています。大学の教授や講師たちにとっても、学生たちの講義には、長年、同じ参考資料を使用しなければならない状況です。大学のキャパシティは、21世紀の課題に対応するためには、情報へのアクセスという点で非常に制約があります。情報やコミュニケーション技術の到来とともに、教育の質を国際基準にするため、大学はこのような新しい開発を受け入れていかなければなりません。

有資格の教師の必要性

年を追うごとに全レベルで入学者が大幅に増加していますが、教員養成大学では教員資格 (TC) および高等教員資格 (HTC) レベルの小学校教師の研修はそれぞれ 3 年間かかるため、教員養成学校を卒業する教師の数は入学者と同じペースでの増加が見られるわけではありません。結果、教師 1 人あたりの生徒の高い比率に対処するため、UU 教師がそのギャップを埋めています。農村部における有資格の教師不足はさらに深刻です。また、女性の小学校教師の割合はわずか 25 パーセントとなっています。

教員養成大学は、大学内で既に学校で教えている UU 教師のための遠隔教育プログラムを実施しています。UU 教師のための小学校教員免許遠隔教育プログラムは、教員養成大学のプレサービス・コースを学ぶための入学条件を満たしていない教師が研修にアクセスできるようにすることを目的としています。

UU 教師は小学校教員免許取得コース (1 年間) 入学のための支援を受けます。教師たちは、学校が休みとなる 8 月、12 月、4 月に個別指導クラスに出席します。翌年の 8 月、最終試験 (National Council for Technical Vocational and other Academic Awards (NCTVA) Examinations) を受けます。コースを修了すると、彼らは 1~3 年生 (lower primary class) を教えることができる有資格の教師となります。

プロジェクトの目的

本プロジェクトの目的は、遠隔教育プログラムを実施する大学の教授/講師の質の向上と UU 教師が遠隔教育プログラムのコースを修了するための支援を行うことです。

このイニシアチブは、教育の質を高める教員研修の改善によって児童の就学率、残留率、修了率に効果があるという国際的な証拠と国のニーズに基づいています。

本プロジェクトは、5 つの教員養成大学の教授/講師と遠隔教育プログラム、遠隔教育プログラムのコースに出席する UU 教師への支援を活動の対象としました。

全体としては、研修を受けた UU 教師によって教育の質が向上し、12,000 人の子どもたちが恩恵を受けることができるようになります。

4. 資金使途

FNSチャリティキャンペーンからご支援いただいた資金は、次のような活動のために活用されました。

2011年/2012年 教員養成プログラム

2011年、231,650.17米ドルのうち87,975.87米ドルが2つの教員養成機関（フリータウン教員養成大学とNjala大学ボー校）への支援に活用されました。この支援によって、両教員養成機関は、地区議会や県の教育事務所と協力し、小学校教員免許取得コース（1年間）に入学するUU教師350名（うち女性118名－33.7%¹）の特定、選考、入学のための準備を行いました。UU教師は、モヤンバ、プシェフン、ボンチ、ボー、そして西部地域から選抜されました。残りの資金は、さらに400名のUU教師が他の教員養成大学のコースを受けられるようにするための活動に活用されました。



子ども中心の教授法(CCTT)練習する教師。

2011年8月、教員養成大学で入学式と最初の授業が行われました。その後は、それぞれの地域で遠隔教育のためのサテライト・センターで子どもを中心とした教育法に関する授業が行われました。同教育法は、子どもの価値観や自尊心を高めるためのグループワーク、歌、劇、その他のインタラクティブで参加型の教育法です。この授業で、教師は授業への積極的な参加を子どもたちに促す方法や子どもたちにとって学習が楽しくなるような教授スキルを学びました。その結果、教室内相互作用や参加型の授業によって、およそ14,000人の子どもたちの学習レベルの向上が見られました。

また、2011年12月、31,516.07米ドルが、フリータウン教員養成大学によるフリータウン教員養成大学の学区であるモヤンバ、プジェフン、ボンチ、西部地域のUU教師300名に対する二回目の授業の実施のために活用されました。また、資金の残額をNjala大学と他の教員養成大学における二回目の対面の授業の実施のために活用されました。

研修中や研修後のユニセフのスタッフと教育科学技術省によるモニタリングとフォローアップを行う支援的巡回指導訪問のためにも資金は活用されました。

2012年、61,770.51米ドルが、3つの教員養成大学(Northern Polytechnic, Eastern Polytechnic and Njala大学ボー校)で小学校教員免許取得コース（1年間）を受講する300名(女性80名－26%²)のUU教師への研修を支援するために活用されました。対面授業は、2012年のイースター休暇を使って実施されました。これが研修の第三フェーズで、二回目の対面授業と同様、教員養成大学における三回目の対面の授業の実施のために活用されました。

¹小学校で働く25%の女性教師と比較

²小学校で働く25%の女性教師と比較

300名の教師たちは、ボンバリ地区、コインドゥグ地区、トンコリ地区、ケネマ地区、カイラフン地区、ポー地区から通っています。イースター休暇を使った対面研修期間中、参加者たちは、子どもを中心とした教授法によって教科科目の指導を行う授業がありました。また、参加者たちはお互いの教授経験について話し合ったり、クリスマス休暇を使った研修で出された宿題を発表したり、講師が説明した科目で難しかった部分をおさらいしたりしました。また、各要素の終了時にテストを受けました。

さらに、5つの教員養成大学(Eastern Polytechnic, Njala 大学ポー校, Port Loko Teachers College, フリータウン教員養成大学、Northern Polytechnic)で、学習道具などの物資の最終使用のモニタリングを行いました。これは、それぞれの教員養成機関における物資の使用と管理を評価することが目的で、在庫記録がチェックされました。検査の結果、文房具や教材などの物資は正しく使用されていることが分かりました。また計画どおりに、研修教材の印刷やワークショップ、様々な教員養成プログラムに使用されていました。物資の適切性や正確性に関する受益者である教師の考えを知るため、各教員養成大学の参加者から20%が無作為に選ばれ、研修期間にインタビューを受けました。物資的的確性と適切性について皆同意し、FNSチャリティキャンペーンのご支援に対し感謝の意を表していました。

5. 達成された成果

FNSチャリティキャンペーンからの資金によって、600人のUU教師（女性180人、男性420人）が、小学校教員免許取得コース（1年間）を受講することができました。

実施大学	学区	研修を受けた男性教師の数	研修を受けた女性教師の数	研修を受けた教師の数（合計）
フリータウン教員養成大学	西部地域	20	30	50
フリータウン教員養成大学	プシェフン (Pujehun)	81	19	100
フリータウン教員養成大学	モヤンバ (Moyamba)	45	30	75
フリータウン教員養成大学	ボンチ (Bonthé)	54	21	75
Njala 大学ポー校	ポー (Bo)	34	16	50
Northern Polytechnic	ボンバリ (Bombali)	36	14	50
Northern Polytechnic	コインドゥグ (Koinadugu)	35	15	50

Northern Polytechnic	トンコリリ (Tonkolili)	34	16	50
Eastern Polytechnic	ケネマ (Kenema)	37	13	50
Eastern Polytechnic	カイラフン (Kailahun)	44	06	50
合計		420	180	600

教育科学技術省は、遠隔教育プログラムの評価を完了しました。研修を受けた UU 教師の多くが試験に合格しました。さらに、本プログラムの研修を受けた教師たちは、授業でも自信を持つことができ、子どもにやさしい教授・学習環境づくりを通じ、子どもたちをサポートするための必要な知識やスキルを習得したと評価しています。また、大半の教師たちが、子どもたちが授業で積極的な学習意欲を見せるようになったと評価しています。教師がコースを修了した後、教師、学校の委員会メンバー、保護者、子どもたちは、教室での学習について前向きな変化を報告しました。

FNS チャリティキャンペーン様のご支援のおかげで、教師は小学校 1～3 年生を教える技術を身につけ、およそ 24,000 人の子どもたち（50%が女子）は、彼らの教師が恩恵を受けました。

ユニセフ、大学教授／講師、省庁の役人による合同モニタリングの報告によると、授業の視察と子どもたちへのインタビューから以下のことが分かりました。

- 訓練を受けた教師たちは、“Think-Pair-Share”や“Learning Together”といったインタラクティブな教授法やグループワーク、児童たちの参加を促す課題などを使って授業を行っています。彼らはまた、特定の科目の学習に対して子どもたちがより意欲を持つような実用的な授業の開発を行っています。
- 訓練を受けた教師たちが、彼らの同僚（UU 教師）へのオリエンテーション研修を実施するので、各学校で乗数効果があります。訓練を受けた教師たちは、授業後、子どもを中心とした教授法の評価チェックリストを使い、今では自分や同僚の評価を行うことができるようになっていました。これは、授業計画、シラバスの読み解き、教材の開発の向上やより興味深い授業の実施に役立ちます。

6. 課題と教訓

課題

- 研修が必要な人数に対し、1回のワークショップで研修を受けた教師の数は比較的少数でした。シエラレオネの教育の質を向上させるためには、より多くの UU 教師が研修を受け、有資格の教師を増やす必要があります。

- 悪い交通網のせいで、訓練された教師への定期的なモニタリングやトラッキングの実施が大きな課題です。
- 遠隔教育コースの教授／講師の情報通信技術に関する知識やスキル不足

教訓

- 研修を受けた教師へのモニタリングは、教師による教授法の実施率や子どもたちの学習レベルの向上レベルを測定のために重要です。
- 県教育事務所と県議会や地区議会との間の改善された調整によって、教師に対するモニタリングや支援的巡回指導の調整も向上します。
- 遠隔教育を行う講師へのリフレッシャー研修は効果的です。
- 選考過程における全ステークホルダーの調整は、透明性を高めたり、役割分担を明確にしたりします。

7. 今後の活動予定

本プロジェクトは、教育・科学技術省による評価を受けました。同省庁による提案に基づき、政府は、プログラムを向上させるための戦略を再検討しました。

政府が遠隔教育戦略に基づき、ユニセフは、支援的指導を提供するために訓練された教師のモニタリングを続けます。

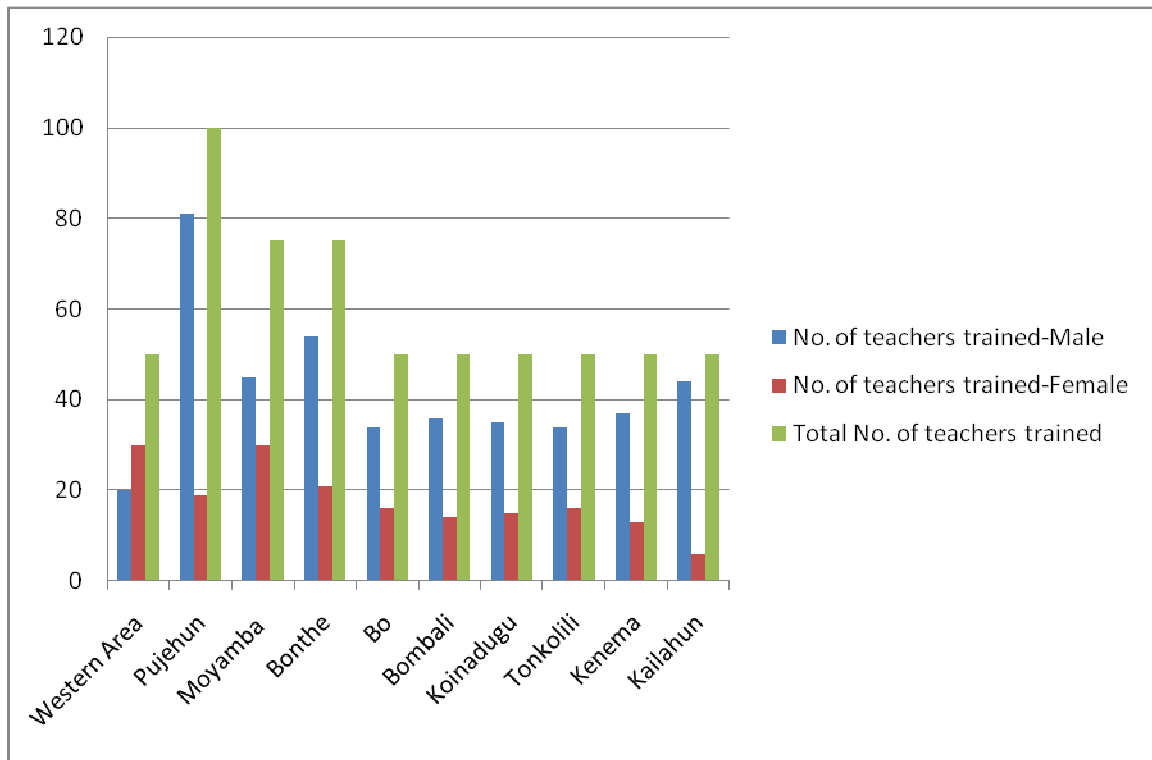
政府は、プログラムを実施する情報通信技術を取り入れたり、遠隔教育プログラムのコースの自習部分を改善や公開学習プログラムの改善のための戦略を再検討する予定です。

8. 謝辞

FNSチャリティキャンペーンのシエラレオネの子どもたちのための継続的なご支援に感謝申し上げます。このたびの資金は、シエラレオネの教育システムの進展に貢献しました。シエラレオネ政府、多国間や二国間のご支援者、ユニセフ国内委員会、NGO、そして他の国連機関にも感謝を申し上げたいと思います。こういった関係各所の連携は、今回の成果において欠かせませんでした。ここにユニセフ・シエラレオネのチーム全体から感謝を申し上げます。

添付資料：

図表 1：訓練を受けた教師の分布(性別・地域別)



添付資料：現場からのストーリー

参加型の教育を通じた学習レベルの向上

ユニセフ・シエラレオネは、シエラレオネの教師に対してより質が高くより参加型の教育を実現するための支援や研修を提供してきました。「チョークとトーク」の暗記学習からの教授法の転換は、批判的思考、創造性、問題解決を後押しするため、また学習の質を高めることを目的としています。研修を受けた教師が働く学校のひとつにフリータウンの中心地にある Bathurst Street Infant School があります。

マルセラ・ジェニファー・デービスは、Bathurst Street の教師です。彼女は、教員免許を取得した 2005 年から教師をしています。教育への情熱を彼女は次のように語ってくれました。「教師という仕事が好きです。大学に入る前、私は地元の子どもたちを集めて自宅で勉強を教えていました。子どもが好きでしたし、明日を担うリーダーは子どもたちなので、私は子どもたちを教育したかったのです。女の子の多くが途中で学校を止めてしまうので、特に女の子のために勉強を教えたかったのです。」



マルセラはどのように勉強を教えていたかを思い出していました。「研修を受ける前は、あらゆることが教師中心だったので、すべてが教師からの発信でした。子どもたちが参加することは難しいと感じていました。しかし、ユニセフの研修で多くのことを学びました。研修で、講師の先生は私たちのレベルに立ってくれ

て、研修を完了するまで私たちを励ましてくれました。子どもたちは、今では自分の考えを示しますし、私たち教師も子どもたちから学んでいます。」

マルセラは、新しい参加型の教授法は女の子たちに役立っていることに気がつきました。彼女は自分の意見を積極的に表明しています。「グループとして一緒に勉強するとき、差別などないことに私たちは気がつきました。」マルセラの生徒のカディアトゥは強調します。「昔は一人ぼっちでしたが、今は友だちと一緒にです。良かったと思います。クラスメートとお互いに教えあうので物事を深く理解できます。」

生徒にとって、グループワークが増えることは、本や教科書の必要性が減ることを意味します。「生徒たちが席につくと、彼らは一緒にグループワークをし、教科書を一緒に使います。私たちは以前、学習が遅い子どもは学年末の試験で不合格になると感じていましたが、生徒たちが共に学ぶと、彼ら自身で答弁し、答えが彼らの一部となり、覚えられるようになります。」

マルセラは、新しい教授法は、子どもたちが殻を破り、恥ずかしさにうち勝つ手助けにもなると理解しています。私が学校に行っていた時は、先生が言ったことを理解できなかったと

き、私は何も言いませんでした。でも今は、理解していない子どもたちははっきりと言います。そのため、彼らが理解するまで何度も何度も教えます。

「生徒たちに課題を出すと、回答ができた生徒たちが教室を回り、まだ理解できていない仲間を助けています。」

マルセラは、生徒たちにはできるだけ高い目標を持ってもらうことを望んでいます。「最近の選挙で、SLPP の副大統領は女性でした。女性たちがこのような地位にある時、彼らは良い仕事をします。そのため、将来、彼らが何者かになるように私たちは若い人びとを教育しています。」

マルセラは、この研修が継続し、将来、シエラレオネのすべての学校の学習アプローチが参加型になることを望んでいます。